

謝 辞

本論文を作成するにあたり、多くの先生方々に仔細にわたるご指導、ご教示を頂いた。また、神奈川大学ヤオ族文化研究所などの諸研究機関、現地調査の際には協力者の方々から大きなご助力を賜った。

まずは、論文の初稿段階から、細部にわたって貴重なご指導くださった神奈川大学歴史民俗資料学研究科の廣田律子教授、佐野賢治教授、小熊誠教授、そして東京学芸大学教育学部の吉野晃教授、国立大学法人筑波大学人文社会系の丸山宏教授、國學院大学文学部中国文学科の浅野春二教授には、深く感謝の意を表したい。

とくに、論文指導教官廣田律子先生の細やかなご指導の下、私は文献研究と現地調査の両面から多くのことを学ぶことができた。廣田律子先生のご指導を頂き、私は2012年に神奈川大学歴史民俗資料学研究科歴史民俗資料学専攻の博士前期課程を修了し、引き続いて同専攻の博士後期課程に進学した。私は神奈川大学ヤオ族文化研究所所長を務める廣田律子先生の推薦もあり、2009年から該当研究所の協力研究者になり、そこで過山系ヤオ族(ミエン)と出会い、ヤオの伝承している儀礼神画に強く興味を抱くようになってきた。儀礼神画の研究を進めるには、ヤオ族文化研究所が行われた現地調査に何回も参加し、研究所が調査で得たヤオ族儀礼文献と儀礼神画の写真資料などの資料自由に利用でき、大いに便宜を賜った。また、論文を作成する段階において、該当研究所の研究会で数回発表させて頂き、所員の方々から貴重なご助言を頂き、数え切れないご支援を賜った。そしてこの博士論文が出来上がった次第である。6年の間、研究などの様々な面で私を支え続けてくださった廣田律子先生、そしてヤオ族文化研究所及び所員の方々には、最大限の敬意を表すと共に、改めて心より謝意を申し上げたい。

私がここまで留学生活及び研究を継続することができたのは、多くの奨学金や研究費によって私の研究生生活を支えてくださったお陰である。神奈川大学米田吉盛教育奨学金(2012年4月～2015年3月)、私費外国人留学生学習奨励費(2012年10月～2013年3月)、神奈川大学非文字資料研究センター奨励研究(2012年6月～2014年2月)には心から謝意を述べたい。

またこの論文の完成に至るまでに、日本語をご修正してくださった秋草学園短期大学非常勤講師の浜田孝子先生、市立市川歴史博物館学芸員の三村宜敬氏、東京大学大学院博士課程教育リーディングプログラム「多文化共生・統合人間学プログラム(IHS)」特任研究員の内藤久義氏、大切な日本の友人の加治木真三子氏には、心からお礼を申し上げたい。